

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300167		
法人名	有限会社 佐香		
事業所名	グループホーム 四季彩 ひまわり棟		
所在地	島根県出雲市灘分町204-2		
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ケーエヌシー(福祉サービス外部評価事業部松江MSIC)		
所在地	島根県松江市黒田町40-8		
訪問調査日	平成29年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は旧平田市の斐伊川土手の近くの田畑や住宅などに囲まれた穏やかな環境の下にあります。基本理念は「ゆっくりと 何度でも繰り返し その人らしい穏やかな暮らしが共に彩れるケアに努めます」。

春にはひなまつり、花見、そうめん流し、七夕会、四季彩まつり、紅葉見学、クリスマス会、新年会など都度ご利用者の状態に合うよう工夫をしながら季節を感じていただける行事を行っています。

日々のレクリエーションの他、気候の良い時には、ご近所の作られた畑や花壇を眺めながら散歩を行っています。地域の方には挨拶をしていただいたり、防災訓練に参加していただいたり、雪かきを手伝っていただいたりなど年間を通して温かく見守っていただいています。

当事業所グループホーム四季彩(以下「ホーム」という。)は、斐伊川から一望する田畑や住宅等が四季折々に和む自然環境のなかにある所に位置し、ホーム利用者ケアの拠りどころである基本理念の意識づけは、引継ぎ等で反復継続され、利用者主体の支援に努めている。年間行事は、利用者に寄り添って行われ、四季彩たよりに編纂されて、利用者家族等への情報発信となっている。外出は、地域住民の畑や花壇を眺める利用者は気分転換を行い五感刺激の機会を得る支援となっている。二月なかばの降雪大雪に見舞われたときは、地域住民は雪かきの手伝いに馳せ参じ又、防災訓練には積極的に参加をするなど、地域住民からはホームの安全安心を見守って貰っている感謝が職員のケアサービス質確保のモチベーションとなって、サービス提供の意欲向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し日々理念に添ったケアに努めている。「ゆっくりと穏やかに」「その人らしい」生活を心がけている。	事業所基本理念は玄関とホールに掲げ、管理者職員はその理念を共有し、意識づけを毎朝の申し送り時や会議等で話し合っ、個々に適ったケアの実践を心掛け、振り返りをおこない、基本理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会に参加したり、地域の婦人会にボランティアで来ていただいたりしている。散歩の途中声を掛けていただいたり避難訓練の手伝いをしている。	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の敬老会参加、婦人会のボランティア来訪、散歩では住民と会話を交わす等地域の人とふれあう機会は多く、避難訓練は地域住民と連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例と対応についての状況報告を行い助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告、日々の取り組みの報告を行っている。意見、要望は会議で検討しサービス向上に活かしている。	2カ月1回の運営推進会議は、施設行事やケアの取組、市担当者の意見、地域住民の地域の情報問題点等の指示は、双方向的に話し合いが行われ、利用者に必要な支援は、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出雲市担当者、来ていただいている出雲市介護相談員とは相談できる体制ができている。	運営推進会議に参加の出雲市担当者とは連絡を密にし、出雲市委嘱の介護相談員の来訪があり、現場や利用者の課題解決に相談できる協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、会議などで意見を出し合い、共通の理解により取り組んでいる。	年一度身体拘束研修に参加した職員が中心となって、身体拘束が身体的、精神的苦痛であることを会議時に職員全員が研修し、拘束は駄目との意識付け、禁止対象の具体的な行為の理解を共有し、抑圧感のないケアに努めている。	身体拘束研修にとどまらず、利用者家族等の顧客満足度を高めるために職員の資質向上を確保する研修に参加の機会が増える事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で意見を出し合い、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	意識が不足している。利用者の中に利用している方がおり学ぶ機会はあった。今後研修に参加していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い利用者や家族の不安や疑問点を聞き十分な説明をし理解納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者も出席していただいている。日頃の利用者や家族との会話の中から意見や要望を読み取り、運営に反映するよう努めている。	利用者からの要望は、本人や家族との会話から傾聴し、引き出す努力を行ってケアプランに活かしてケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は合同会議に出席するなど意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案を元に話し合い、結果として反映されることもあるがされない時こともある。	ユニット会議、代表者が出席する合同会議では、代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、脱衣場の寒さ対策はガスに変更される等運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特性を理解して適切なアドバイスをもたらしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会は設けているが積極的な参加は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や小規模ケア連絡会に加入し、研修には参加しているが交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごと、不安なこと要望等を傾聴するが、思いが表現できない方もおられる。又、不安、不満、家族の考えは施設の運営上どうしても解消されない場合もあり、チームで話し合うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より悩みや要望、思いを聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換を行ない必要なサービスの優先順位を見極め支援の提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする仲間としてかかわるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆、あるいは思いを大切にしながらともに支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙の交流がある。	馴染みの人が訪ねてきたり、手紙で関係が途切れないように交流が継続している人を見守る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりができるよう席のセッティングを変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を都度確認しながら対応している。困難な場合は元気な時の話を家族から聞いたり本人の思いを感じとりながら検討し対応している。	日々の暮らしにかかわる中で、一人ひとりの希望とか意向を聞き出しながら、利用者の思いを確認し、意思疎通が困難な利用者は、家族からの情報も得て、職員は利用者本位にケアの検討をおこなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方の情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を記録し職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状について家族に報告、相談をしユニット会議でよりよいケアのための話し合いをしている。	介護計画は、利用者の暮らしの現状について家族との相談話し合いにより、ケア担当や主任を中心にアセスメント、カンファレンスを行い、利用者の思いや意見は一カ月毎のモニタリングを活かして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、ケアの実践結果、気づきを記録し職員間の共有に努めている。問題があれば都度話し合いをし対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化によって生まれるニーズを職員間で話し合い柔軟な対応に努めている。必要時には家族に報告、理解をいただくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は必要最低限にとどまっている。利用者が心豊かな生活が楽しめているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、かかりつけ医による往診が行われている。協力医もあり、体調不良時や緊急時には適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の往診は、定期的に行われ、体に痛みがある時、発熱が続いている時、急変時は家族等の希望に対処して、協力医の受診につなげ、複数の医療機関との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での情報や気づきを看護師に伝えて相談、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供を行っている。入院中相談員は病院関係者と情報を交換し必要時にはカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人家族等に事業所のできるできないことを説明し方針を決めていきたい。終末期ケアにおいては現段階ではハード面でもソフト面でも対応は困難であるが、研修に参加して、支援の理解に努めたい。	看取りに関する指針は整い、利用者家族等には入居時説明が行われている。利用者の重度化、終末期の看取り研修には参加をして、支援についてスタッフ職員、かかりつけ医、協力医等医療機関、各方面に呼びかけて行う看取りの取り組みは準備段階である。	看取りの実践は、家族との連携を深めることに意識付けが行われている。重度化や終末期の看取り研修会への参加は内部研修に活かして、家族等の理解を一層深める機会を設けて、看取りの実践工夫が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	知識としての勉強会はあったが実践では難しいと感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯夜勤帯それぞれの火災訓練(地域住民も参加)、水害訓練を行った。消火器訓練や避難の際の指導をいただいた。	避難訓練は水害を想定し、地域住民や消防署の参加、協力を得て、市内の平田高校・中学校に情勢に応じて避難を実践的に行い、夜間想定火災避難訓練も行い、災害対策取り組みの訓練は実践的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーに考慮した言葉掛けに努めている。	利用者のプライバシー、誇りの尊重、人間の尊厳を大切にする声掛けを実践し、日常の不適切なケアが虐待と受け取られる又、虐待につながる事案を挙げながら、本人を傷つけないケアの対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と職員の関係づくりやコミュニケーションを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた過ごし方が出来るように心がけている。その日にどのような過ごし方があるか今後選択肢を提案し行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人に選んでもらっているがあまりに厚着だったり季節感のない服装の時は声掛けを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には下準備や盛り付けをしていたり食事でも会話しながら一緒にしている。	献立表は食欲がわくメニューを工夫し、利用者は調理の下準備や盛り付けに有する力を発揮し、食事の用意は利用者個々の力に合わせて行い、同じテーブルを囲み食事を楽しむ雰囲気づくりを職員は大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養・水分が確保できるよう提供している。量や形態も一人ひとりにあったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の口腔状態や力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ声掛けし支援している。	排泄記録表から昼間、夜間の排尿・排便のトイレ誘導、ポータブル誘導ができるようにして、おむつ・パット、リハビリパンツ使用も本人に合せて検討し、職員は排泄自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操やレクなどで体を動かすようにしている。看護師の指示の下剤を服用し調整している。		nstte
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回の入浴を基本午前中にしていただいているが、希望や必要に応じて午後にも入浴していただいている。	利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴時間を把握し、職員の都合によらないで、午前は10時から、午後は2時からの時間帯に1日置き週3回から4回の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後の午睡の時間を設けているがそれ以外にもその時々状況に応じて休んでいた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は全員に分かるようにしてある。薬の変更は業務日誌に記入し周知している。服薬の支援と症状の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理やお茶の袋詰め、洗濯物たたみなどの家事を役割をもっていただいている。趣味や楽しいことをして気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期には散歩に出かけている。家族と一緒に外出を楽しまれる利用者もおられる。	利用者は、気候の良い時期は、短時間でも戸外に出て散歩を楽しみ気分転換を行っている。家族の協力による外出は、ストレス発散の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族了解のもと利用者はお金の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきのやり取りは希望される時に支援している。電話の希望には家族の了解を得てからしている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには生け花や行事の写真を掲示している。利用者が描かれた絵や作品を飾っている。ウッドデッキで季節の花を植えたり夏には野菜を育てている。	共用空間は、廊下、ホール等は、季節に合わせて飾りやぬり絵が掲げられ、玄関は生活感や季節感を採り入れた施設行事写真や外出写真等が掲示され、居心地よく過ごせる場を整える支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶は席を決めている。テレビやカラオケ、レクなどは席を変えほかの方の関わりができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室壁には好みのカレンダーや家族の写真などを飾っている。	居室は、本人と相談をしながら好みの調度品等が持ち込まれ、飾られた懐かしい写真などは思い出を彷彿させて、居心地よくその人らしい居室づくりの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりを心掛けている。ホールからそのままウッドデッキに出られるようになっている。日向ぼっこや気分転換ができる。		